

=====  
主観評価法・官能検査法, 精神物理測定法

- ・物理量と感覚量の関係を測定する手法
- ・厳密な実験条件の設定と計測データの分析処理を要する  
人間の主観評価に基づくテストをすべて『主観評価法』試験と呼べるわけではない(オーディオ雑誌や音楽雑誌に載っているような試聴テストは主観評価法試験ではない)
- ・日常的な語彙では『主観』の反対語は『客観』であるが, 主観評価法は人間の主観による判断に基づくから『信頼性が低く客観性の無い』測定しか出来ないということではない

=====  
音が違う≠音が良い

- ・回路を改良した音響機器の改良前後の音質を主観評価することを考える
- ・未改良の機器をA, 改良後の機器をBとして主観評価実験をおこなう
- ・AとBの音が同じか・違うかを判断させる実験をおこない, 両者には有意差があるという結果が出た場合, 改良によりAよりもBの方が音が良くなったと判断しても良いか?
  - > 有意差の存在だけでは, Bの音の方が良いことを意味しない  
(Aの音の方が良いのかもしれない)
  - > 場合によってはAの方が良いと判断する被験者と, Bの方が良いと判断する被験者とに被験者群が分かれる場合もある